

視 察 報 告 書

報告者氏名：小室卓重

委員会名：民生常任委員会

期 間：令和4年10月24日（月）～26日（水）

視察都市等及び視察項目：

- ① 練馬区：ひとり親家庭自立応援プロジェクトについて
- ② 愛媛県：農福連携推進について
- ③ 豊中市社会福祉協議会：コミュニティソーシャルワーカーについて

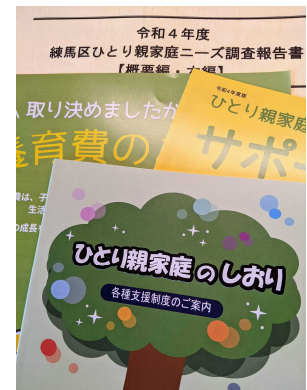
所 感 等：

練馬区：ひとり親家庭自立応援プロジェクトについて

平成28年にニーズ調査が行われ、現在の支援策が構築された。

特徴的なのは、生活福祉課ひとり親家庭支援係という専管部署、ひとり親家庭支援ナビ（専用HP）、月1回のメールマガジンの配信、ヘルパー派遣。ナビやメルマガは、それでなくても忙しいひとり親にとっては、ありがたい情報源となっていると思う。ナビのユーザーは11,144件（令和3年度）とのことなので、20歳未満の子のいるひとり親世帯7,595世帯（令和2年度）に比して、必要な方がこのサイトを訪れているだろうと推察できる。見やすく親しみやすい作りになっている。

また、東京都の独自制度「児童育成手当」（子ども一人につき月額13,500円）は、羨ましいと思う一方、自治体によって支援に格差が生じていることについては、子どもの貧困対策を国がしっかりと進めるべきと思いました。



愛媛県：農福連携推進について

農業と福祉をつなぐ「農福連携」は、農業における人手不足対策と、働き先を探す障害者のマッチングを行い、どちらの悩みも解決することを目指すものです。

障害も人それぞれであり、どのような農作業ならフィットするのか、また、障害のある方にその作業を理解できるように説明し、仕事に馴染んでいけるようにする伴走型支援が大事とのことでした。

私も、横須賀市内の農作業を行う就労継続支援事業所には見学に行ったことがあります。農作業のほか、加工品製造なども行うなど、様々な仕事があり、その人に合った仕事ができるのはよいと思っています。

農業と福祉をつなぐための人の育成、確保が求められています。



豊中市社会福祉協議会：コミュニティソーシャルワーカーについて

以前参加したオンラインセミナーの講師だった勝部麗子さんから、今回は直接にお話を伺うことができました。

中学校区に1人のCSW（コミュニティソーシャルワーカー）を配置し、小学校区ごとに福祉なんでも相談窓口を開設。一方、年間4000件のローラー作戦、安心キットの配布など、相談を待つだけでなく、積極的に人に会うことを行い、重層的支援体制を回しています。地域が自ら動くための仕掛けは、福祉が他人事でないことを気付かせ、SOSを言える気付ける地域づくりにつながっています。福祉が施しでないことが定着してこそ、真の福祉社会だとあらためて思いました。

活動の様子がコミックスになっています。地域福祉のモデルとして、多くの人を知り、実践のヒントとなる可能性を感じます。

